

【公表用】

平成30年度 第1回レイヤー種鶏導入および素ひな計画生産の概要

月 日 : 平成30年7月12日(木)

場 所 : 馬事畜産会館 会議室

1 レイヤー種鶏導入調査結果

この調査は平成30年6月末現在の種鶏導入実績（平成29年次と平成29年度）及び種鶏導入計画（平成30年次と平成30年度）について、全国のレイヤー孵卵場24場（前回24場）からの統計データを集計したものである。

2 種鶏導入計画羽数（平成30年次と平成30年度）（表1）

平成30年次の種鶏導入計画羽数（調査報告）は、116万6,352羽と平成29年次実績107万8,245羽に比べて8.2%増とかなりの程度増加する。年度ベースでも、平成30年度は114万3,477羽と29年度の106万0,565羽に比べて7.8%とかなりの程度増加する計画となっている。地域別に見た場合、年次ベースでは、東日本が前年より9.9%増（29年次65万8,135羽⇒30年次72万3,492羽）であるが、年度ベースでも同様に9.8%増（29年度64万1,095羽⇒30年度70万4,117羽）となっている。

中部は、年次ベースでは前年より3.5%減（29年次24万6,570羽⇒30年次23万8,020羽）であるが、年度ベースでは逆に8.5%増（29年度25万7,070羽⇒30年度27万8,820羽）となっている。

一方、中四国・九州は、年次ベースでは、前年より18.0%増（29年次17万3,540羽⇒30年次20万4,840羽）であるが、年度ベースでは逆に1.1%減（29年度16万2,400羽⇒30年度16万0,540羽）となっている。

東日本では、30年次、30年度とも前年を大きく増加する計画となっており、全国レベルでも30年次、30年度ともに前年を大きく上回る水準になったものとみられる。

この調査羽数をもとに平成30年次及び平成30年度の全国種鶏羽数を推計すると平成30年次が128万8,000羽（前年次120万5,000羽に対して6.9%の増加（羽数ベース+83,000羽））、平成30年度が128万2,000羽（前年度117万4,000羽に対して9.2%の増加（羽数ベース+108,000羽））が見込まれる。（表1-30年推計＊）

（＊1） カバー率による指数

（A）平成29年次の（一社）日本種鶏孵卵協会調べの国内産種鶏雌導入羽数と農林水産省動物検疫所による輸入初生ひなの輸入実績（卵用種鶏）をあわせた羽数は、120万5,000羽（29年度ベースでは、117万4,000羽）。

（B）種鶏導入調査による平成29年次の導入羽数実績は107万8,245羽。

(29年度ベースでは、106万0,565羽)。

(C) カバー率 (B) / (A) = 89.5% (年度ベースでは、90.3%)

(D) 指数 (A) / (B) = 1.11756 (年度ベースでは、1.10696)

2 平成30年次及び平成30年度の採卵用素ひな生産見込み（出荷能力） （表2）

平成30年次と平成30年度における素ひなの出荷羽数を推計すると、平成30年次が1億1,380万羽（前年次より0.4%減）であるのに対して、平成30年度は1億1,416万羽（前年度より0.2%減）。

一方、平成30年次（1—12月）の商業的のえ付け羽数を前年並みの1億1,173万羽（表2のM欄）と仮定すると、年間トータルでは、平成30年次は余剰気味で推移したことから、208万羽の余力が見込まれ、年度ベースでも、244万羽の余力が見込まれる。

（*）生産見込みを算定する指標

採卵用素ひなの生産見込みを算定する指標は、種鶏の育成率97%、供用期間308日（44週）、種鶏1羽当たり素ひな生産羽数は白玉鶏が100.9羽、赤玉鶏は91.2羽、ピンク玉鶏は104.6羽とした。

4 卵殻色別種鶏導入羽数（表3）

平成30年次の卵殻色別種鶏導入計画を平成29年次の実績羽数と比較すると、白色卵は年次ベースでは前年に比べ13.9%増（年度ベースでは2.7%の増）、褐色卵は年次ベースでは0.4%減（年度ベースでは26.0%の増）、ピンク卵は年次ベースでは3.3%減だが、年度ベースでは14.5%減の見込み。

卵殻色別種鶏導入羽数割合では、平成29年次、平成29年度、平成30年次、平成30年度と、それぞれ白色卵の羽数割合が59.9%、62.2%、63.0%、59.3%と変動するのに対し、褐色卵の羽数割合は、31.8%、28.7%、29.5%、33.5%と変動する。

5 素ひな・種卵の需給動向

（1）平成30年次の種鶏導入計画羽数見込みは、116万6,352羽と平成29年次実績107万8,245羽に比べて8.2%とかなりの程度増加する見込みであり、年度で見た場合でも、30年度が114万3,477羽と29年度の106万0,565羽に比べて7.8%とかなりの程度増加する見込み。

（2）平成30年次と平成30年度における素ひなの出荷羽数を推計すると、平成30年次が1億1,380万羽（前年次より0.4%減）であるのに対して、平成30年度は1億1,416万羽（前年度より0.2%減）。

一方、平成30年次（1—12月）の商業的のえ付け羽数を前年並みの1億1,173万羽（表2のM欄）と仮定すると、年間トータルでは、平成30年次は余剰気味で推移したことから、208万羽の余力が見込まれ、年度ベース

でも、244万羽の余力が見込まれる。

- 6 今回の調査にご協力いただいたレイヤー孵卵場は次のとおりです。(順不同)ここに厚く御礼申し上げます。

北海道・東北(2)

小岩井農牧(株)小岩井農場、(有)岩村ポトリー北海道事業所

関東甲信越(9)

千葉孵化場(株)、(株)小松種鶏場、(株)I・ひよこ、(有)岩村ポトリー、(株)トマル、
神奈川県養鶏経済農業協同組合連合会、丸天農園養鶏孵化場、(株)カントウ、
イセファーム(株)(茨城)

中部(5)

とりっこ倶楽部“ホシノ”、日本レイヤー(株)、(株)大畑シェーバー孵化場、
(株)後藤孵卵場、(株)三重ヒヨコ

四国・九州(8)

(有)新延孵化場、(株)村田孵化場、マルイファーム(株)、(資)琉球孵卵場、(株)梶原種鶏
孵化場、(株)坪井種鶏孵化場、アミューズ(株)、(株)後藤孵卵場九州営業所

(表1) レイヤー種鶏導入調査集計表(平成30年7月調査)

一般社団法人 日本種鶏解卵協会
単位:羽、%

区 分			1月	2月	3月	4月	5月	6月	上期計	7月	8月	9月	10月	11月	12月	下期計	年次計	1月	2月	3月	3ヶ月計	年度計	
東日本	11	29年実績	40,500	99,315	36,000	64,500	40,400	80,720	361,435	51,800	14,500	70,300	33,600	33,500	93,000	296,700	658,135	63,275	32,000	63,500	158,775	641,095	
		30年計画	63,275	32,000	63,500	76,800	65,200	57,967	358,742	32,500	48,400	50,150	58,800	82,000	92,900	364,750	723,492	10,000	48,000	81,400	139,400	704,117	
		前年比	156.2%	32.2%	176.4%	119.1%	161.4%	71.8%	99.3%	62.7%	333.8%	71.3%	175.0%	244.8%	99.9%	122.9%	109.9%	15.8%	150.0%	128.2%	87.8%	109.8%	
中 部	5	29年実績	29,000	5,500	11,000	39,550	24,250	26,570	135,870	26,700	0	19,500	35,000	29,500	0	110,700	246,570	5,000	39,000	12,000	56,000	257,070	
		30年計画	5,000	39,000	12,000	25,900	19,750	570	102,220	43,000	39,800	0	34,500	18,500	0	135,800	238,020	46,000	7,500	43,300	96,800	278,820	
		前年比	17.2%	709.1%	109.1%	65.5%	81.4%	2.1%	75.2%	161.0%	#DIV/0!	0.0%	98.6%	62.7%	#DIV/0!	122.7%	96.5%	920.0%	19.2%	360.8%	172.9%	108.5%	
中四国・九州	8	29年実績	17,340	17,000	29,800	4,000	9,000	9,000	86,140	0	59,500	15,900	0	12,000	0	87,400	173,540	22,000	5,000	26,000	53,000	162,400	
		30年計画	22,000	5,000	26,000	4,000	9,000	43,420	109,420	14,420	0	16,200	11,000	31,000	22,800	95,420	204,840	5,500	0	3,200	8,700	160,540	
		前年比	126.9%	29.4%	87.2%	100.0%	100.0%	482.4%	127.0%	#DIV/0!	0.0%	101.9%	#DIV/0!	258.3%	#DIV/0!	109.2%	118.0%	25.0%	0.0%	12.3%	16.4%	98.9%	
全 国	24	29年実績	86,840	121,815	76,800	108,050	73,650	116,290	583,445	78,500	74,000	105,700	68,600	75,000	93,000	494,800	1,078,245	90,275	76,000	101,500	267,775	1,060,565	
		30年計画①	90,275	76,000	101,500	106,700	93,950	101,957	570,382	89,920	88,200	66,350	104,300	131,500	115,700	595,970	1,166,352	61,500	55,500	127,900	244,900	1,143,477	
		前年比	104.0%	62.4%	132.2%	98.8%	127.6%	87.7%	97.8%	114.5%	119.2%	62.8%	152.0%	175.3%	124.4%	120.4%	108.2%	68.1%	73.0%	126.0%	91.5%	107.8%	
参 考		30推計	千羽					*	*	*	*	*	*	*	*	*	106.9%	千羽	*	*	*	*	109.2%
		29年統計	千羽						622	100	99	74	117	147	129	666	1,288	千羽	69	62	143	274	1,282
		(協会調べ)	89	130	92	117	97	112	637	81	101	94	90	112	90	568	1,205	90	71	119	280	1,174	

(注1) 平成29年1月～平成30年5月は実績値((一社) 日本種鶏解卵協会調べ)。

(注2) 平成29年実績カバー率(1,078,245/1,205,000=89.5%)。

(注3) 平成30年推計*は修正係数(1,205,000/1,078,245=1.11756)を30年計画羽数①に乗じた羽数。

(表2) レイヤー 種鶏導入結果と素ひな生産能力(平成30年7月調査)

一般社団法人 日本種鶏解卵協会

(調査回答羽数によって作成)

種 鶏 餌 付 羽 数 (千羽)										素 ヒ ナ の 出 荷 能 力 (千羽)					コマーシャル餌付羽数 (千羽)			備 考	
種 鶏 餌 付	A		B		C			調査羽数(導入調査)		E	F	出荷羽数(G)				L	M		N
	国内産	輸 入	統計(A+B)	白	赤	ピンク	回答	前年比	餌付年月			生産月	白	赤	ピンク				
H28年1月	81	22	103	62	31	10	90	142.9	26/ 9~27/6	H28/1	5,853	2,619	988	9,127	H28/1	8,317	97.8	※L素ひな生産能力指標 (新) *種鶏供用期間 3 0 8 日 (44週 ; 25~68週齢) *種卵の平均採取率 : 白93.0%、赤92.4%、ピンク94.3% *種鶏1羽当たり種卵個数 : 白249.8個 赤226.4個 ピンク240.9個 *種鶏1羽当たりひな生産 : 白100.9羽 赤91.2羽 ピンク104.6羽 白 : 赤 : ピンク = 6 : 3 : 1	
2	63	20	83	50	25	8	75	97.4	10~ 7	2	5,366	2,416	903	8,685	2	8,604	104.0		
3	71	0	71	43	21	7	67	95.7	11~ 8	3	5,741	2,590	968	9,299	3	9,238	99.7		
H27年度	1,045	112	1,157	694	347	116	1,056	106.8			67,334	30,105	11,424	108,864		103,870	100.9		
H28.4	88	7	95	57	29	10	90	95.7	12~ 9	4	5,461	2,468	920	8,849	4	8,779	104.4		
5	102	0	102	61	31	10	105	147.9	27/1~ 10	5	5,631	2,546	950	9,127	5	9,398	104.6		
6	127	21	148	89	44	15	143	96.6	2~ 11	6	5,486	2,472	931	8,890	6	9,228	101.6		
7	93	9	102	61	31	10	90	108.4	3~ 12	7	5,890	2,643	996	9,529	7	8,532	96.6		
8	83	0	83	50	25	8	34	43.6	4~28/1	8	5,980	2,683	1,011	9,673	8	8,471	112.9		
9	99	0	99	59	30	10	109	158.0	5~ 2	9	5,676	2,546	959	9,181	9	9,184	108.8		
10	74	16	90	54	27	9	97	102.1	6~ 3	10	5,709	2,556	969	9,233	10	9,140	103.1		
11	101	0	101	61	30	10	100	175.4	7~ 4	11	5,418	2,428	923	8,769	11	8,837	103.7		
12	79	0	79	47	24	8	63	48.8	8~ 5	12	5,748	2,572	980	9,299	12	9,213	101.6		
H28年計	1,061	95	1,156	694	347	116	1,063	102.8			67,959	30,538	11,498	109,995		106,941	103.1		
H29年1月	89	0	89	53	27	9	87	96.7	27/ 9~28/6	H29/1	6,005	2,688	1,021	9,715	H29/1	9,276	111.5	※L素ひな生産能力指標 (新) *種鶏供用期間 3 0 8 日 (44週 ; 25~68週齢) *種卵の平均採取率 : 白93.0%、赤92.4%、ピンク94.3% *種鶏1羽当たり種卵個数 : 白249.8個 赤226.4個 ピンク240.9個 *種鶏1羽当たりひな生産 : 白100.9羽 赤91.2羽 ピンク104.6羽 白 : 赤 : ピンク = 6 : 3 : 1	
2	111	19	130	78	39	13	122	162.7	10~ 7	2	5,501	2,471	933	8,906	2	8,277	96.2		
3	92	0	92	55	28	9	77	114.9	11~ 8	3	6,021	2,707	1,021	9,750	3	9,748	105.5		
H28年度	1,138	72	1,210	726	363	121	1,117	105.8			68,527	30,780	11,614	110,922		108,083	104.1		
H29.4	92	25	117	70	35	12	108	120.0	12~ 9	4	5,858	2,635	996	9,488	4	9,112	103.8		
5	97	0	97	58	29	10	74	70.5	28/1~ 10	5	5,925	2,666	1,007	9,598	5	9,029	96.1		
6	107	5	112	67	34	11	116	81.1	2~ 11	6	5,731	2,573	974	9,278	6	9,759	105.8		
7	70	11	81	49	24	8	79	87.8	3~ 12	7	5,865	2,628	1,001	9,495	7	8,889	104.2		
8	100	1	101	61	30	10	74	217.6	4~29/1	8	5,924	2,651	1,016	9,592	8	8,339	98.4		
9	84	10	94	56	28	9	106	97.2	5~ 2	9	5,892	2,635	1,008	9,535	9	9,014	98.1		
10	70	20	90	54	27	9	69	71.1	6~ 3	10	6,054	2,714	1,034	9,802	10	9,225	100.9		
11	112	0	112	67	34	11	75	75.0	7~ 4	11	5,769	2,603	988	9,360	11	9,519	107.7		
12	90	0	90	54	27	9	93	147.6	8~ 5	12	5,995	2,704	1,031	9,731	12	9,081	98.6		
H29年計	1,114	91	1,205	723	362	121	1,080	101.6			70,542	31,677	12,031	114,249		109,268	102.2		
H30年1月	90	0	90	54	27	9	90	103.4	28/ 9~29/6	H30/1	6,099	2,754	1,049	9,902	H30/1	9,387	101.2	※L素ひな生産能力指標 (新) *種鶏供用期間 3 0 8 日 (44週 ; 25~68週齢) *種卵の平均採取率 : 白93.0%、赤92.4%、ピンク94.3% *種鶏1羽当たり種卵個数 : 白249.8個 赤226.4個 ピンク240.9個 *種鶏1羽当たりひな生産 : 白100.9羽 赤91.2羽 ピンク104.6羽 *C欄のH30年1月~H31年3月の種鶏♀羽数は推計値 白 : 赤 : ピンク = 6 : 3 : 1 ※M欄の平成30年1月以降のえ付け羽数は 前年並みと仮定。	
2	71	0	71	43	21	7	76	62.3	10~ 7	2	5,448	2,453	934	8,835	2	9,034	109.1		
3	87	32	119	71	36	12	102	132.5	11~ 8	3	6,054	2,714	1,036	9,804	3	9,940	102.0		
H29年度	1,070	104	1,174	704	352	117	1,062	95.1			70,616	31,729	12,074	114,420		110,328	102.1		
H30.4	113	16	129	77	39	13	106	98.1	12~ 9	4	5,820	2,607	994	9,421	4	9,503	104.3		
5	75	24	99	59	30	10	94	127.0	29/1~ 10	5	6,056	2,700	1,032	9,788	5	10,035	111.1		
6			*	114	68	11	102	87.9	2~ 11	6	5,928	2,643	1,009	9,580	6	9,759	100.0		
7			*	100	60	10	90	113.9	3~ 12	7	5,911	2,641	1,004	9,557	7	8,889	100.0		
8			*	99	59	10	88	118.9	4~30/1	8	5,828	2,603	991	9,422	8	8,339	100.0		
9			*	74	44	7	66	62.3	5~ 2	9	5,510	2,456	936	8,901	9	9,014	100.0		
10			*	117	70	12	104	150.7	6~ 3	10	5,831	2,602	990	9,423	10	9,225	100.0		
11			*	147	88	15	132	176.0	7~ 4	11	5,771	2,588	981	9,341	11	9,519	100.0		
12			*	129	77	13	116	124.7	8~ 5	12	6,068	2,729	1,034	9,830	12	9,081	100.0		
H30年計	436	72	1,288	773	386	129	1,166	108.0			70,324	31,489	11,990	113,803		111,725	102.2		
H31年1月			*	69	41	7	62	68.9	29/ 9~30/6	H31/1	6,121	2,773	1,049	9,943	H31/1	9,387	100.0	※L素ひな生産能力指標 (新) *種鶏供用期間 3 0 8 日 (44週 ; 25~68週齢) *種卵の平均採取率 : 白93.0%、赤92.4%、ピンク94.3% *種鶏1羽当たり種卵個数 : 白249.8個 赤226.4個 ピンク240.9個 *種鶏1羽当たりひな生産 : 白100.9羽 赤91.2羽 ピンク104.6羽 *C欄のH30年1月~H31年3月の種鶏♀羽数は推計値 白 : 赤 : ピンク = 6 : 3 : 1 ※M欄の平成30年1月以降のえ付け羽数は 前年並みと仮定。	
2			*	62	37	6	56	73.7	10~ 7	2	5,532	2,520	954	9,006	2	9,034	100.0		
3			*	143	86	14	128	125.5	11~ 8	3	6,117	2,782	1,053	9,952	3	9,940	100.0		
H30年度	188	40	1,282	769	385	128	1,144	107.7			70,494	31,644	12,026	114,164		111,725	101.3		
H31.4									12~ 9	4	5,784	2,619	994	9,397	4	9,503	100.0		
5									29/1~ 10	5	6,141	2,773	1,060	9,974	5	10,035	100.0		
6									2~ 11	6	6,261	2,829	1,084	10,174	6	9,759	100.0		
7									3~ 12	7	6,617	3,006	1,148	10,771	7	8,889	100.0		
8									4~30/1	8	6,291	2,880	6,291	15,461	8	8,339	100.0		
9									5~ 2	9	5,876	2,688	5,876	14,441	9	9,014	100.0		
10									6~ 3	10	6,075	2,782	6,075	14,931	10	9,225	100.0		

注) *は推計値

表3 レイヤー卵殻色別種鶏導入計画(平成30年7月調査)

(表 3-1) 卵殼色別種鶏導入羽数

① 年次

(單位：羽、%)

	平成29年次（実績）				平成30年次（計画）				対比（計画／実績）			
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計
東日本	452,435	180,000	25,700	658,135	517,592	180,300	25,600	723,492	114.4%	100.2%	99.6%	109.9%
中部	106,950	100,400	39,220	246,570	112,550	89,000	36,470	238,020	105.2%	88.6%	93.0%	96.5%
中四国・九州	86,020	62,400	25,120	173,540	105,120	74,720	25,000	204,840	122.2%	119.7%	99.5%	118.0%
計	645,405	342,800	90,040	1,078,245	735,262	344,020	87,070	1,166,352	113.9%	100.4%	96.7%	108.2%

② 年度

	平成29年度（実績）				平成30年度（計画）				対比（計画／実績）			
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計
東日本	454,395	161,000	25,700	641,095	469,617	203,800	30,700	704,117	103.3%	126.6%	119.5%	109.8%
中部	122,750	83,100	51,220	257,070	125,050	123,300	30,470	278,820	101.9%	148.4%	59.5%	108.5%
中四国・九州	83,000	60,200	19,200	162,400	83,120	56,420	21,000	160,540	100.1%	93.7%	109.4%	98.9%
計	660,145	304,300	96,120	1,060,565	677,787	383,520	82,170	1,143,477	102.7%	126.0%	85.5%	107.8%

(表 3-2) 卵殼色別種鶏導入羽数割合

資料：（一社）日本種鶏孵卵協会調べ

① 年次

④ 平次	平成29年次（実績）				平成30年次（計画）			
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計
東日本	68.7%	27.4%	3.9%	100.0%	71.5%	24.9%	3.5%	100.0%
中部	43.4%	40.7%	15.9%	100.0%	47.3%	37.4%	15.3%	100.0%
中四国・九州	49.6%	36.0%	14.5%	100.0%	51.3%	36.5%	12.2%	100.0%
計	59.9%	31.8%	8.4%	100.0%	63.0%	29.5%	7.5%	100.0%

② 年度

	平成29年度（実績）				平成30年度（計画）			
	白色	褐色	ピンク	計	白色	褐色	ピンク	計
東日本	70.9%	25.1%	4.0%	100.0%	66.7%	28.9%	4.4%	100.0%
中部	47.7%	32.3%	19.9%	100.0%	44.8%	44.2%	10.9%	100.0%
中四国・九州	51.1%	37.1%	11.8%	100.0%	51.8%	35.1%	13.1%	100.0%
計	62.2%	28.7%	9.1%	100.0%	59.3%	33.5%	7.2%	100.0%

(表 3-3) 卵殼色別地域別構成比

① 年次

[illegible]

② 年度

[illegible]